

平成31(令和元)年度 学校自己評価表

2019/10/30

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己表現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり 5 業務改善の取組				
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進する。	学力の向上	基礎的な知識および技能の向上 主体的に学習に取り組む態度の育成	組織的、計画的に授業改善を推進する	「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進と校内推進体制の強化	B	・5回目開催の「学びの文化祭inYonago」は、10月28日に実施し、70名あまりの参加があった。 ・各教科のICT機器活用率は43.2%であり、ICT機器活用研修を行い、利用促進を図った。 ・10月21日に第1回目のコーチングスキル研修会を実施し、12月2日に2回目を実施予定である。
				ICT機器の教員全体の80%活用	ICT機器の教員全体の80%活用		
		コーチングスキル向上による授業改善の更なる促進	コーチングスキル向上による授業改善の更なる促進	B	・学校独自事業は計画どおり実施中である。特別支援学校との交流は、11月8日に実施予定である。 ・ビジネス文書実務検定1級速度1名、2級1名、情報処理検定2級4名、秘書技能検定2級1名合格した。 ・家庭系2級以上について、合格者数が58名で合格率75.3%であり、昨年度49%より増加している。		
		思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	地域経済分析システム(RESAS)を活用した米子市中心市街地活性化基本計画の構築と地方創生アイデアコンテスト及び高校生ビジネスグランプリへの応募	B	・「RESAS」を活用した「米子市中心市街地活性化基本計画」を策定し、地方創生アイデアコンテストおよび高校生ビジネスグランプリへ応募した。	
2 豊かな人間性の育成	遅刻者数は年々減少している。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	基本的生活習慣の定着	遅刻者数10%減を目指す	遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	C	・9月末現在で、前年比11%増となっているが、3年生は80%減である。	
			規範意識の向上と掃除の徹底	米子高校生としての自覚を促す行動の啓発(問題行動ゼロ)。SNS対策を中心とする情報リテラシー教育の推進	B	・問題行動ゼロは達成できなかったが、スマホ携帯安全教室を実施し、SNSトラブルの啓発活動は実施した。殆どの生徒が米子高校生としての自覚を持った行動がとれている。 ・自主的に放課後に清掃活動をする生徒がいるなど、生徒は真面目に掃除に取り組んでいる。	
		生徒の主体的活動の推進 (国際交流・部活動)	生徒の各種活動への積極的参加を促す	生徒会執行部による各種自主的活動の充実 部活動指導員・外部指導者の活用による部活動指導の充実 アメリカSTA高校への派遣・韓国造形芸術高校への交流派遣と受け入れ	A	・学校行事やあいさつ運動等に積極的に参加・活動を行っている。 ・運動系部員は減少したが、外部指導者2名、部活動指導員1名を活用するなど充実した活動を行っている。 ・韓国造形芸術高校との交流において7月に生徒受け入れ、12月は訪問予定である。3月にはSTA高校への派遣を予定している。	
		支援が必要な生徒への援助	生徒情報を共有し適切なサポートを行う	研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	B	・エビエンの職員研修を行うなど、緊急対応への理解を深めた。 ・支援や配慮が必要な生徒情報を職員が共有し、生徒・保護者に十分な対応を行っている。	
3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・プレデマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	キャリア教育の発展	教員の指導力向上と外部指導者の活用	総合的な学習の時間における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会において他県生徒との連携	B	・1年次「産業社会と人間」、2・3年次の「プレデマ」「テーマ学習」で社会人講話等を活用し、進路意識を高めることができた。 ・学習成果発表会は、他県生徒との連携に向けて準備中である。	
		進路指導の充実	生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	教員研修と進路希望検討会を充実させ、高大接続改革推進プロジェクトチームによる大学入試改革への対応 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・進路希望検討会を実施し、受験における個別指導、面接の充実を図るとともに、9月に職員進路研修会も実施した。 ・プロジェクトチームで大学入試改革対応のeポートフォリオや評価方法導入に向けて準備を始めた。 ・看護系進学希望者への職場体験を予定どおり実施し、進路選択に効果があった。	
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える	部活動における各種イベントの開催と参加 学校運営協議会を活用した地域連携の推進 「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進	B	・吹奏楽部・ダンス部・UTA同好会・書道同好会が各種イベントや、保育施設、福祉施設に訪問し、パフォーマンスを披露した。 ・11月に開催する第2回学校運営協議会で、学校運営に関する具体的な提言をいただく予定である。 ・草花植栽・提供活動を、米子市文化ホール、JR米子駅に行い感謝状をいただいた。公民館へプランターの花提供ができた。 ・イチゴ栽培・収穫では保育園児と交流を実施した。今年度の課題をふまえ、来年度に向けて苗の準備を行っている。	
		積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する	「高校生出前キャリアガイダンス」の拡充 総合美術展の開催による情報発信	B	・高校生出前キャリアガイダンスは、実施に向けて準備をしている。 ・総合美術展は1月に米子コンベンションセンターで開催予定である。	
5 業務改善の取組	長時間勤務者が複数名いる。	時間外勤務を月45時間以下、年間360時間以下を目標とする	月当たりの時間外業務を平成29年度の15%削減	掃除の徹底と整理・整頓の推進 米子高校「部活動方針」に基づく適切な運用 業務の効率化と意識改革の推進による時間外勤務の把握と指導	B	・執務室や更衣室の整理整頓と掃除の徹底を行っている。机上の整理・整頓をさらに進める必要がある。 ・各部とも月間活動計画を作成・提出し、部活動休業日を設定し、部活動活動方針を遵守できている。 ・昨年度より月45時間超時間外勤務者が22%減少している。また、平成29年度より時間外月平均時間が16%削減できている。	

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要